

GREEN RADER

全農長野県本部情報
／グリーンレーダー

2023 VOL.526

3



令和5年度事業計画

A-Policy【重点事業方針】

生産販売部 販売開発課の取組み

A-Reports

- | | | | |
|------------------------------|----|------------------------------------|----|
| ・「東信3JA営農部門推進協議会」設立 | 06 | ・令和4年度 九州・山口地区での野菜消費宣伝活動について | 09 |
| ・フルーツフォトコンテスト「バシャフル!2022」 | | ・JA全農長野の事業現況 | 10 |
| 4, 300件超の応募 | 07 | ・今月のおすすめレシピ | 10 |
| ・「COCO'Sで長野米キャンペーン」開催中 | 07 | ・3月のラジオ番組表 | 10 |
| ・ジュース用トマトの生産者募集中 | 08 | ・編集後記 | 10 |



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

令和5年度事業計画

J A全農長野基本理念

会員 J A との一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、J A 組合員の営農と生活の向上に貢献します。

【事業運営の基本目標】

1. 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大
2. 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化
3. J A 経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

【経営管理の基本】

県本部総合経営管理制の堅持による県域機能の発揮

基本方針

1. 未だ収束が見通せないロシアによるウクライナ侵略、円安の影響、また、自然災害の頻発・激甚化、SDGsをはじめとした持続可能な社会実現、アフターコロナを想定した新しい生活様式への対応など、農業を取り巻く環境は一層厳しい状況になっています。特に、原料の輸入依存度が高い肥料、燃料、飼料といった生産資材の高騰が続くなか、農畜産物の価格は低迷しており、営農継続が危ぶまれるほどの事態になっています。
2. 令和3年度の食料自給率は、国産小麦・大豆の生産拡大などが主な要因となり、カロリーベースでは38%と微増した一方、主食用米や野菜をはじめとした農産物価格が下がったことを受け、生産額ベースでは63%と過去最低となりました。食料・農業・農村基本計画において、食料自給率の向上を打ち出すなか、未だ、先進国で最低の水準となっています。政府は、中長期的な観点から持続可能な食料システムの構築に向け「みどりの食料システム戦略」を策定、生産から消費までの各段階の取り組みとカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進するとしており、J A グループとしても自己改革の環境調和型農業への対応をすすめています。
3. 長野県における農業産出額、J A 長野県グループの農畜産物販売高は、近年横ばいからやや増加傾向にありますが、農家数の推移を見ると、40才未満の新規就農者は増加傾向にあるものの、総農家数や基幹的農業従事者は減少の一途を辿っています。また、経営耕地面積は、大規模農家・法人経営体の面積は拡大傾向にあるものの、全体の面積は減少が続いており、今後、更なる農家数や経営耕地面積の減少が予想されます。J A の正組合員数は長期的な減少傾向にある一方で、准組合員数は増加傾向であり、組織基盤の構造変化と組合員ニーズへの対応を急ぎ、地域の活性化ならびにJ A 経済事業の進展をはかる必要があります。
4. このような環境のもと、長野県本部は基本理念に基づき、不断の自己改革および、J A ・県域および子会社の機能を最大限発揮し、かつ連携を深め、部門別事業競争力強化およびJ A 経済事業収支改善による経営基盤の確立をはかります。また、県本部総合経営管理制を堅持し、県域結集の拡大と結集成果のJ A ・組合員への還元をすすめます。

経営計画

総供給販売高計画（年度別）

【単位：百万円、％】

部 門	令和5年度計画	令和4年度計画	対比（R5/R4）
生産振興部	270	260	104
生産販売部	156,430	158,640	99
生産購買部	35,500	32,900	108
畜産酪農部	32,500	32,000	102
生活部	44,100	44,000	100
総合計	268,800	267,800	100

税引後当期利益 1億2千万円（税引前当期利益 2億円）

事業方針

1. 農業振興事業

- (1) 産地基盤維持に向け、マーケットや地域実態・担い手ニーズに対し、3部連携の担い手推進センターによる生産・販売提案、支援機能を発揮し、JAと一体となって生産振興を推進します。また、JA生産法人との連携による栽培実証圃の設置やJA営農指導に係る支援体制を強化し、生産性向上に向けた技術提案と普及拡大に取り組めます。
- (2) 激甚化する気象変動や災害に対応し、施設の拡大や圃場排水対策の実施による生産安定化を推進するとともに、災害忌避のための有効な施設強化や資材導入ならびに技術対策をすすめます。
- (3) 農業生産支援に係るシステム開発による農業DX化の促進や、スマート農業機器の活用、機械化一貫体系の導入により労働力不足解消や品質・生産性向上対策をすすめます。
- (4) 生産振興を展開するため、野菜優良苗の安定供給とリンゴフェア

苗の供給拡大について体制を強化します。

2. 生産販売事業

- (1) 「みどりの食料システム戦略」を見据えた持続可能な農業に取り組む、環境負荷低減に向けた資材や栽培方法の開発導入ならびに国内資源の有効活用をすすめます。また、引き続き安全安心な農産物の供給に対する取り組みをすすめます。
- (2) 生産コスト上昇分の価格転嫁実現に向け、卸売会社や実需者と連携し、契約取引毎の内容精査と価格見直しに積極的に取り組みます。また、付加価値販売の強化や輸出事業の拡大等の多様な販売手法により生産者手取の向上に努めます。
- (3) 営業活動に基づくマーケットインを起点とした生産販売事業に取り組み、JAとの連携による系統共販率向上と競争力強化をすすめます。また、系統未利用・低利用の生産者等に対し担い手推進センターと連携し、実需者との結び付きを踏まえた品目の提案を行い、系統利用の拡大に取り組めます。

3. 生産購買事業

- (1) デジタル技術の活用による系統園芸事業の一貫したシステム構築に取り組み、データ化によるJAとの情報共有と業務効率化に向けたシステム開発、DX化をはかります。
- (2) 物流2024年問題の解決策として、遠隔地に対するストックポイントの設置、共同輸送体制の検証等による安定的な輸送体制の構築に取り組めます。また、荷待ち時間の解消、配送集約等の見直し、パレット輸送や出荷規格の集約と見直しなどによる効率的輸送の取り組みをすすめます。
- (3) 長野米の需要に基づく計画的生産と系統結集をすすめ、商品力の向上と実需者との関係強化による契約販売の拡充により所得の増大に取り組めます。
- (4) 包装資材事業は、生産・流通現場の実態に合わせた材質・規格の見直しと、箱面積の削減および製造・納品の効率化をすすめ、段ボール価格抑制に取り組めます。また、販売部署と連携し、機能性の高い

包材導入による商品競争力の強化と、効率的な青果物輸送によるトータルコスト削減に向けた包材開発をすすめます。

- (2) 肥料農薬事業は、B B 肥料の原料集約・見直し、省力化を目的とした軽量肥料の開発、指定混合肥料の普及、農薬の統一的な防除暦採用メリット創出によるコスト低減をすすめます。また、大規模経営体への担い手直送規格農薬の拡充や土壌診断に基づく「わたしの肥料」の提案推進に取り組みます。

- (3) 生産資材事業拠点(物流・店舗)の再編・整備では、J A・県域の物流拠点・配送体制の構築、資材店舗再編・売場改善支援に取り組みJ Aの事業収支改善に努めます。また、システムの構築・連携による業務効率化をすすめます。

- (4) 農業機械事業は、県下2拠点目となる堀金農業機械整備センター設置により、J A 農機整備事業の強化をすすめます。また、県域推奨型式を中心とした重点購買、全国J Aグループによる共同購入の取り組み、民間業者の活用を含めた中古農機の確保・流通拡大を通じ、

生産者コスト低減に取り組みます。

- (5) 施設住宅事業は、施主代行を基本として一級建築士事務所による専門性を発揮し、高度化する農業施設への技術コンサルティング対応機能の強化をはかります。また、省エネや再生可能エネルギー利用による脱炭素社会に向けた施設建設・リノベーション提案の推進を行うとともに、多様な組合員ニーズに対応した住環境改善事業に取り組みます。

- (6) 担い手推進事業は、肥料農薬専任体制による担い手への提案型推進をすすめるとともに、部門間連携による担い手推進センターの機能発揮に取り組みます。

4. 畜産酪農事業

- (1) 畜産経営継承支援事業の利活用や、県本部奨励施策の有効活用により生産基盤維持と販売数量の確保をはかります。

- (2) 信州プレミアム牛肉等の信州畜産物のブランド力向上や県内外における効果的販促活動による販売強化、信州産生乳の安全安心・乳質向上による有利販売を目指す

ともに、重点農場巡回による生産性向上により生産者手取りを確保します。

- (3) 県本部生産農場は、その機能発揮のため収支改善をはかり、肥育素子豚の安定生産、預託牛事業、乳量確保、素畜供給等を通じ県内生産基盤の維持・確保に努めます。

- (4) 営農指導体制強化に向け、地域畜産酪農営農センターは、職員の積極的な研修参加等により資質向上をはかるとともに、最適なセンター運営体制に向け協議します。

- (5) J Aグループ食肉処理施設検討プロジェクトで検討した内容について、県の食肉施設検討会に反映させ、県・市町村と連携し代替候補地等、具体的事項に関する協議により、県内食肉処理施設の方向付けをすすめます。

5. 生活事業

- (1) S S 事業の競争力強化と地域ライフライン維持に向けて、S S 協同経営方式の継続・拡充による次期事業体制への移行をすすめます。

また石油事業は、系統結集による数量を背景とした仕入強化、農業

生産用燃料支援対策の実施とともに、Webシステム対応をすすめて顧客の固定化・新規獲得により事業基盤強化に取り組めます。LPガス事業は、営業力強化とホームエネルギー取扱体制の構築をすすめるとともに、ポータルサイト活用等による顧客囲い込みにより供給先確保に取り組めます。

- (2) S S 協同経営事業は、S S 独自キャンペーンの実施とJ A事業との連携強化により来店促進をはかり、燃料油およびカーメンテ収益の確保により収支改善に取り組めます。また、ENEOS決済ツール及びLINEの新規会員獲得推進を強化し顧客固定化をすすめるとともに、EV対応として先行S Sに急速充電器を導入しEV充電事業に取り組めます。

- (3) 自動車事業は、営農車(J Aサンバー・J Aキャリイ)を中心に系統結集による取扱台数確保をはかるとともに、電動車取扱体制の整備に取り組めます。

- (4) 宅配事業は、次期事業体制への移行に向けて事業量・戸数維持に努めます。また、eコマース事業は、

「らくJAお届け便」に加え、「JAタウン」の業務を担い事業拡大に取り組みます。

(5) セレモニー事業は、多様化する葬儀形態への対応力を強化し、葬儀件数とシェアの確保につながる虹のホールグループ活動をすすめます。

6. 経営管理

(1) 県域結集および事業競争力の強化によるJA・組合員へのメリット還元を基本とする県本部総合経営管理を堅持します。

(2) 事業環境の変化を踏まえた県本部機能に見合う部門別収支の検証と見直しにより、事業管理費の精査および管理コストの節減に努め、経営の安定化をすすめます。

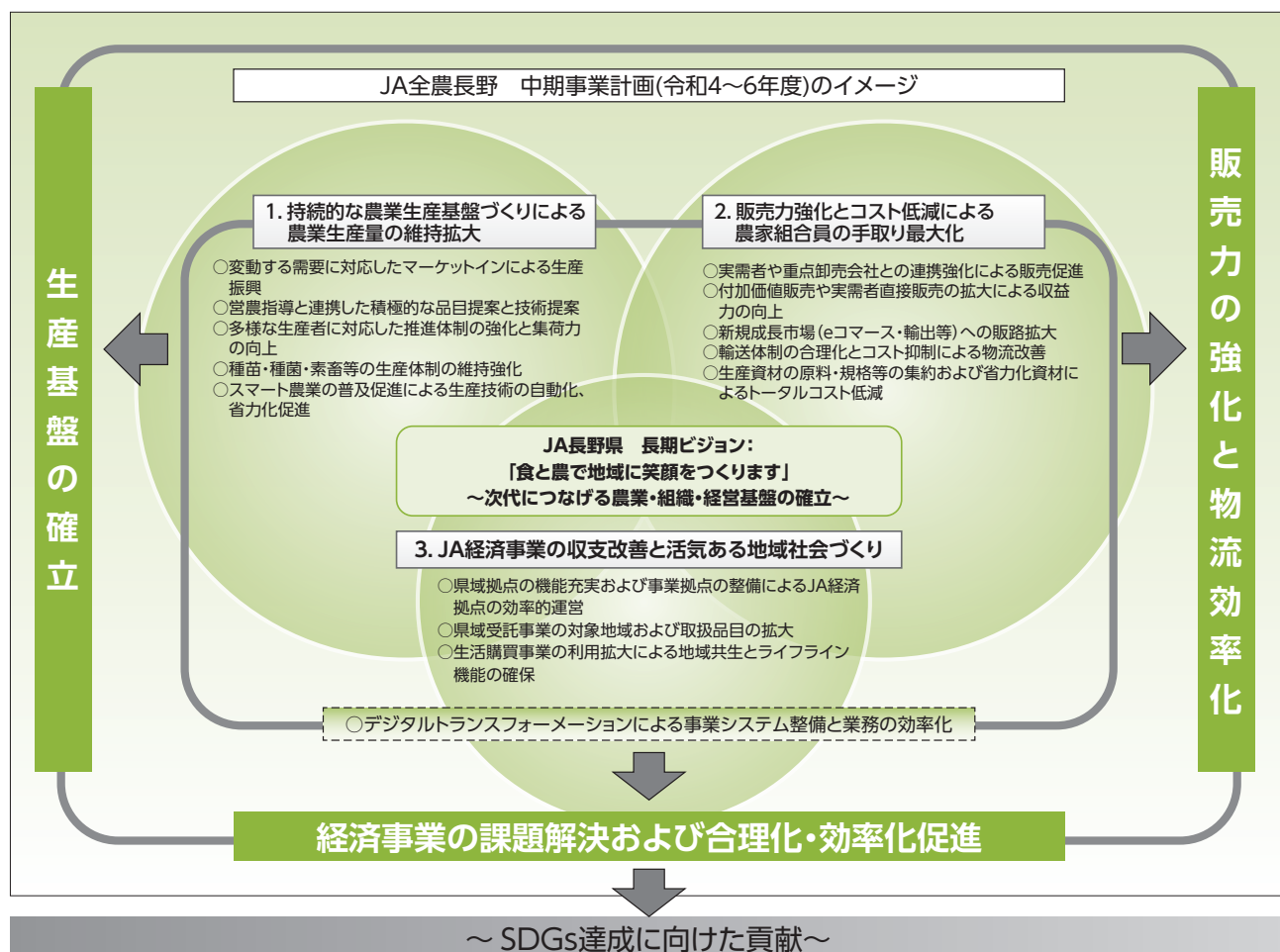
(3) 業務に応じたリスクの洗い出しをすすめるとともに、一斉事業点検検証や業務点検を通じて、コンプライアンスの態勢強化と重点管理すべきリスク（法令違反、労務管理、労働災害、ハラスメント、個人情報管理等）の未然防止を推進します。

(4) 県本部総合経営管理体制を担う業務

体制を効率化するとともに、職員的能力開発・人材育成をはかり、JA・子会社との一体的事業遂行および自己改革の実践のための多様な雇用形態による要員体制を確立します。併せて、働き方の見直しを行い、適切な労務管理を実践します。

(5) JA長野県グループおよび行政機関等と連携し、効果的な広報活動と、地域に貢献する組織広報をすすめます。県内プロスポーツ選手等の活用により県産農畜産物の宣伝・PR活動に取り組みます。

(6) 子会社は、内部統制システムの整備およびコンプライアンス態勢の推進による健全経営管理をはかるとともに、JA経済事業の補完機能強化をすすめます。



販売開発課

生産販売部 販売開発課の取組み

「令和4年度事業概要」

設置から3年目を迎えた販売開発課では、多様化する消費者・実需者ニーズに対応すべく付加価値商品の開発・販売による農業所得の向上を目的に、商品開発業務とeコマース業務、新規事業開拓業務に取り組んでいます。

コロナ禍も3年が経過し、青果物の販売を取り巻く環境や末端のニーズも目まぐるしく変化し、価格相応の高い品質商品を求める声も大きくなってきました。このような環境下での令和4年度販売開発課の取り組みを報告します。

1. 商品開発への取組み

令和3年度から試験研究開発を進めた果実コンポートは、（一社）長野県農村工業研究所と地元企業である森食品工業㈱の全面協力のもと、本年度はモモ2種（ワッサー、だて白桃）、リンゴ3種（秋映、シナノスイート、シナノゴールド）の商品化が実現しました。

このコンポートは、85℃の加熱殺菌

の後、100MPaの高圧処理を15分間施すことで瞬間的に糖液を果肉内部まで均一浸透させ、同時に品質に与えるダメージ

（型崩れ、軟化、変色等）を最小限に抑える効果を引き出し、果実本来のシャキツとした食感を残すことができました。長期間の常温保存が可能で、青果の旬の時期以外でも個々のおいしさを楽しめる商品として、品種ごとの



果実コンポート（左から）ワッサー、だて白桃、秋映、シナノスイート、シナノゴールド

加工レシピを研究し採用しました。現在、インターネット通販サイト「JAタウン 全農長野 僕らはおいしい応援団」にて絶賛販売中です。

2. eコマース事業への取組み

eコマース事業ではインターネット通販サイト「JAタウン 全農長野 僕らはおいしい応援団」の運営を行い、農家所得の向上をサポートして参りました。長野県内産の農畜産物商品のラインナップの充実を目指し、出店者の皆様に向け商品企画提案（商品・規格・販売期間）を積極的に行い、サービス向上と売り上げ拡大を図って参りました。令和4年度は大きな気象災害も少なく、青果物全般に豊作基調であったことから販売点数は拡大し、12月末時点の累計実績で140百万円（前年比122%）となりました。

3. 新規事業開拓への取組み

全国本部営業開発部との連携により、長野県産果汁原料を使用した全農商品



4月8日に開かれたニッポンエールりんご三兄弟清涼飲料水の記者会見

の飲料、菓子類のデザイン監修やプレスリリースへの参画、限定販売するコンビニエンスストア営業担当者様向けの研修会を通じ、長野県産品農産物のPRと営業サポートを推進してまいりました。また、量販店、コンビニエンスストア向け惣菜関係や果実の小包装パックの企画販売に協力して参りました。

「東信3JA営農部門推進協議会」設立

1月12日(木)、県下初の取り組みとして「東信3JA営農部門推進協議会」が設立されました(Ⅱ表紙右下)。

東信地区は大きく分けて、南佐久、北佐久、上小の3地区があり、過去には南佐久野菜専門委員会、東信(北佐久・上小)園芸専門委員会があり、JA・本会をまたぐ協議体として、設置されてきました。JA合併が進む中で、各JAの専門委員会・協議会・部会の機能が充実してきたことから、平成17年に東信園芸専門委員会は解散となり



ました。その後は必要に応じて会議を開催してきました。

時代の経過とともに農業を取り巻く環境も変化し、近年では環境が一層厳しさを増してきました。さらに、JA合併により組織の大型化が進む一方で、生産者の高齢化などによる農業生産力の低下により、集出荷施設の稼働率低下や輸送口ツットの小型化が進展しています。こうした中、1JAだけでは解決できない現状に対して、協同組合間連携により共通課題に対処していきたいという機運が高まってきました。東信地区においては、JA佐久浅間より年度当初からこうした課題について協議する場の設置要望があり、東信事業所としても検討を重ねる中で、表記協議会を設立する運びとなりました。

当日は、JA長野ハケ岳 津金組合長以下8名、JA佐久浅間 浅沼組合長以下13名、JA信州うえだ 眞島組合長以下12名、JA長野中央会 新芝常務以下4名、JA全農長野東信事業所 由井所長以下10名の総勢47名の参加をもって設立総会を開催し、引き続

き開催された定期総会で事業計画が承認されました。

協議会では、具体的な課題について協議する機関として、営農の品目ごとに8つの分科会を設置することとし、通常総会後に部門の分科会を開催しました。分科会では

各部門長の選出と部門検討課題の抽出選定、次回開催計画について協議を行いました。部門ごとの協議内容は表のとおりです。

分科会後に全体会議を行い、部門長の紹介と検討課題の発表を行いました。今後は部門ごとに課題について協

議を重ねていきます。また、協議の結果や進捗状況について随時常勤役員へも報告することとし、東信地区JA・中央会・本会が協同して取り組んでいくことを確認しました。

部門	部門長	検討課題	次回開催予定
営農企画	JA信州うえだ 小松次長	技術委員の資質向上、研修体制の整備	2月中旬
野菜	JA長野ハケ岳 小池課長	2024年問題に関わる物流課題。各JA出荷なじみ市場の整理、調整。	3月下旬～4月上旬
果樹	未定	選果場の運営。後継者問題など、生産基盤の維持	2月上旬
花卉	JA佐久浅間 原田次長	物流課題。生産基盤の維持。施設の相互有効利用。	未定
直売	JA佐久浅間 西部課長	佐久・上田の2JAの直売所間連携。栽培記録管理のシステム化。インボイス制度対応。	2月中・下旬
畜産	JA長野ハケ岳 井出課長	飼料高騰対策。後継者確保策。屠場問題。	未定
きのこ	JA信州うえだ 上野リーダー	2024年問題に関わる物流課題。JA間連携による指導体制。	3月下旬～4月上旬
生産資材	JA佐久浅間 荻原課長	オリジナル肥料(野菜・水稻等)の共有化。3JAによる大口仕入れの拡大によるスケールメリットの創出。ネット注文強化による店舗集約。	3月中旬

▼▼果実花き課

フルーツフォトコンテスト「パシヤフル! 2022」 4,300件超の応募

J A全農長野果実花き課は昨年7月1日～12月31日の期間に長野県産果実の認知度向上と消費拡大を目的とし、SNSフォトコンテスト「パシヤフル! 2022」を開催しました。インスタグラム内において「旬の信州産のフルーツ」をテーマにした写真・動画の募集を行い、全国各地から延べ4,351件の応募がありました(※表紙上3枚)。

キャンペーンをきっかけに家族で長野県産果実を楽しむ姿や、果実を使用したオリジナルレシピが多く投稿されました。それらが投稿者の交友関係に拡散され、長野県産果実の情報波及が見受けられました。長野県外の方からは「長野県産のりんごの味を知ってから、長野県産しか食べない。毎年楽しみにしている」「長野のフルーツは、種類がたくさんあるので、毎月季節のフルーツを購入して応募するのが楽しい」等のコメントがあり、長野県産果実



7月の「グランプリ」

コメント

「待ってました～(^O^)/スーパーに長野県産ブルーネが出回るようになりました!フルーツは大好きですが、特にブルーネは私の中で間違いなく上位に入ります☆健康や美容にとていいブルーネ!」



11月の「グランプリ」

コメント「信州りんご三兄弟の食べ比べをしました!」



12月の「がぶり賞」

コメント「ガブッとかじったりんごの果汁感サイコー!」

の関心を高めることができました。また、応募いただいた作品の中から、毎月13点の写真を優秀作品に選出し、インスタグラムとHPに掲載しました。入賞者には、産地説明のパンフレットと、県内J Aの出荷箱を用いた旬の果実1箱をはじめ、長野米・信州和牛・旬の野菜の詰め合わせなど長野県産物のセットが送付され、当選した喜びの声と、長野県産果実のおいしさについて改めて投稿いただきました。

フォトコンテストは終了となりましたが、今後も全農長野果実花き課インスタグラムアカウント「パシヤフル! (@shinshufruits)」では、長野県産果実のイベント情報や産地情報の魅力発信を行い、全国に向けて消費喚起を図ってまいります。

パシヤフルの
インスタグラムは
こちらから
ご覧いただけます



SHINSHUFRUITS

▼▼米穀課(株)マイパル長野

長野米消費拡大 キャンペーン 「COCO,Sで 長野米キャンペーン」 開催中

長野県内のファミリーレストラン「ココス」全13店舗のメニュー※には、マイパル長野の「長野県産コシヒカリ」が使用されています。

さらに、安全・安心で美味しい地元のお米「長野米」を、もっとたくさんの皆様に食べていただくように、今年も長野米が当たるキャンペーンを店頭で実施しています。

応募方法は、ココス店内の各テーブルにあるQRコードからキャンペーン特設サイトへアクセスし、必要事項を入力して、応募ボタンをタップ! 抽選で200名様に「長野県産コシヒカリセレクト」5kgが当たります。

長野米のより一層の消費拡大のため、「ココス」の店頭で足を運んでいただき、キャンペーンへのご参加をお願いします。応募期間は4月2日まで。詳しくはキャンペーン特設サイトまで。

※ジャンバラヤ、ドリア、スパイスカレー、あんかけ炒飯、おこさまオムライスは除く

ジュース用トマトの生産者募集中

JA全農長野野菜きのこ課は、ジュース用トマトの生産者を募集しています。

長野県は、ジュース用トマト全国生産量の約25%を占める主力産地です。冷涼な気候に恵まれ、日照時間が長いことから、高品質なジュース用トマトの生産に適しています。

しかし、かつては170ヘクタールと全国1位であった県内の作付け面積は、2022年には100ヘクタールまで減少しました。原因は、近年の極端

な気候変動による長雨や猛暑による収穫前の病気や、生理障害の発生による収穫量の減少です。加えて、収穫時期が7月下旬～9月上旬と暑い時期の作業となることです。

一方、ジュース用トマトはコロナ禍の中でも安定したニーズがある品目です。栽培に高度な技術や機械・投資を必要としないため、新規就農者も取り組みやすく、また買取単価が保証され、出荷経費が掛からないことから、安定した収入が見込めます。反収向上のため排水性を良好に保つカットブレーカーや収穫作業の労働力不足を補う収穫機械の試験など、栽培指導をはじめとするサポート体制も整っています。

国産ジュース用トマトの主な需要は、夏に採れたてのトマトをそのまま缶詰に詰める「ストレートジュース」で、輸入のトマトピューレなどで製造する「濃縮還元トマトジュース」とは異なる風味とおいしさが人気となっており、長野県産トマトジュースにはメーカーや消費者から大きな期待が寄せられています。

野菜きのこ課では、国産原料を使用したトマトジュースをより多くの消費者に届けられるよう、作付け面積の拡大に努めて参ります。

新しく農業にチャレンジしてみたい！

生涯現役でバリバリ活動したい！

ジュース用トマト生産者募集

ジュース用トマトの栽培メリット

- 適切な管理によって収穫量UPで収入UP！
※農家が初めての人でも農協の栽培講習会などで栽培ポイントを教えてもらえます。
- 価格が決まっているので、安定収入が見込めます。
- 運賃や出荷コンテナ代などの出荷経費が掛かりません。
- 選別は簡単です。規格に合えば、全量出荷できます。
※8月～9月の収穫期以外にはポイント管理なので、他の品目との組み合わせが可能です。

農業経営を安定させたい！

- 栽培品目に加えることで経営安定の効果が期待できます
- 作付面積の拡大をご検討の方は収穫機での栽培も！

栽培希望の方は、お近くのJAまたはJA全農長野野菜きのこ課 TEL.026(236)2250 まで

信州 JA全農長野・JA全農長野野菜専門委員会ジュース用トマト部会

※栽培時期：5～9月（収穫時期：7月下旬～9月中旬）

長野県内のCOCO'S全店で、長野米が当たる！

好評につき今年も開催！

COCO'S RESTAURANT で

長野米

キャンペーン2023

応募受付期間

2/11(土) ▶ 4/2(日)

キャンペーン特設サイトはこちら



令和4年度 九州・山口地区での野菜消費宣伝活動について

コロナ禍となり2年が経過しましたが、本年度も消費者に向けた「食べ方提案」「献立の後押し」となる店頭での対面試食宣伝が、ほぼ実施できない状況が続きました。一方、秋頃より一部量販店では対面試食宣伝が再開され始めています。

JA全農長野福岡販売事務所では、コロナ禍で積み上げた売り場づくりの販売手法に取り組み、対面試食宣伝は可能な限り実施することで、より多くの消費者に長野県JA産野菜の訴求を図って参りました。

■ラジオ宣伝（産地取材+箱ごとプレゼント）

コロナ禍以降、福岡の地元放送局であるRKB毎日放送のラジオ番組で、長野県JA産農産物の「箱ごとプレゼント」企画を継続的に実施しました。農産物を出荷箱ごとプレゼントするこの企画は毎回好評で回を増すごとに応募数が増えており、当選者からは「コロナ禍で疎遠になったご近所との交流再開のきっかけになった」などの声を多くいただきました。

これまでは出演者がスタジオから産地と品目、食べ方などを紹介していましたが、今年はJA長野八ヶ岳とJA信州諏訪にリポーターが取材に赴き、産地の取り組みの紹介や生産者・JAの生の声を届け、長野県産野菜により親しみを感じてもらった内容としました。

■店頭動画モニター（デジタルサイネージ）の活用



店頭に設置したモニター

イオン九州の50周年祭に合わせ、6月に「信州高原野菜フェア」を開催し、九州7県のイオンモール・スーパー店舗の合計344モニターに、15秒動画を広告掲出しました（Ⅱ表紙左下）。また、大型店舗には32.5型モニターを売り場に設置し、動画を放映しました。動画には、産地紹介・商品特徴・食べ方提案（レシピ動画）を盛り込み、試食販売員に代わり情報発信をしました。

■調味料メーカータイアップ宣伝

本年は、6月にダイショーと「スーブラレー」、9月にキューピーと「ハクサイときのこのサラダ」、10月にキューピーと「焼きハクサイとカリカリエノキゴマドレ和え」のタイアップ宣伝を実施しました。調味料と対象野菜のこのが同じ売り場に陳列され、調味料メーカーにオリジナルで作成していただいたコラボPOPを売り場で掲出して需要を喚起しました。

福岡販売事務所では、今後も従来の宣伝手法に捉われず、長野県JA産野菜の消費拡大と販売促進に努めて参ります。

店頭動画モニター

タによる宣伝は、新規実需者にも拡大し、店舗担当者から販促支援として好評を得たほか、10月には秋野菜の主力「ハクサイ」と本県増産品目の「白ネギ」の販売拡大につながりました。



信州高原野菜フェア
ハクサイ2分動画



信州高原野菜フェア
レタス15秒動画

JA全農長野の事業現況▶

令和4年度1月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		17	-	36080
野菜種苗センター		136	87	85
生産振興部計		154	98	96
米	穀	13,179	91	95
果実花き		46,023	103	111
野菜きのこ		63,703	85	97
営業		12,566	84	99
生産販売部計		135,470	91	101
包装資材		7,264	96	107
生産資材		10,179	132	126
農業機械		4,848	91	96
施設住宅		5,393	116	168
生産購買部計		27,683	110	120
畜産酪農		25,842	100	97
三岳牧場		215	100	103
SPF繁殖センター		246	96	99
八ヶ岳牧場		172	79	88
畜産酪農部計		26,474	100	97
燃料・ホームエネルギー		22,944	102	102
S S 協同経営		6,359	107	105
生活		7,588	102	99
生活部計		36,890	103	102
長野県本部計		226,665	96	103

(内部販売高含む)

3月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
3/22(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶり内 「暮らしの応援団」	生活課

今月のおすすめレシピ

“プラス・オンで、もっと健康にきのこキャンペーン”

チキンステーキ 和風きのこソース



■材料(2人分)

- ・えのきたけ……………200g 『ソース材料』
- ・ぶなしめじ……………100g ★醤油……………大さじ1
- ・エリンギ……………1本 ★酒……………大さじ1
- ・鶏もも肉……………300g ★みりん……………大さじ1
- ・塩コショウ……………適量 ★和風だし……………小さじ1/2
- ・酒……………150cc
- ・バター……………10g

■作り方

- ①鶏もも肉は厚みのある部分に切り込みを入れ、塩コショウで下味をつける。
- ②フライパンにサラダ油をひき、鶏肉の皮を下にして2分ほど強火で焼く。酒を加え、ふたをして弱めの中火で5～6分蒸し焼きにする。
- ③別のフライパンにバターと食べやすく切った、えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギを入れ火にかける。
- ④きのこがしんなりしたら、★を加えふたをして2～3分加熱する。
- ⑤鶏肉を食べやすく切って皿に盛り、④をかける。

グリーンレーダーの ツイッターを始めました

JA全農長野
【公式】グリーンレーダー

@ja_greenradar



編集後記

3月に入り、日中は暖かな日差しが降り注ぐようになりましたが、朝晩はまだまだ寒さが身に凍みます。そのような季節の移り変わりの中で、二十四節気について調べてみました。今年は2月4日が「立春」となり、その後、おおむね2月の中旬から3月初旬を「雨水」、3月初旬から中旬を「啓蟄」、3月中旬から4月初旬を「春分」、4月初旬から中旬を「清明」と移行行きます。また春分の日を中心に前後3日間は春彼岸と呼ばれ、ご先祖様をお迎えする期間となります。「暑さ寒さも彼岸まで」と古くから言われているように、この頃を境に身に凍るような寒さともお別れし、過ごしやすい春の気候へと変わっていきます。

さて、我が家のリンゴの剪定も終盤を迎えました。兄と2人で悪戦苦闘しながらなんとか形になってきましたが、しっかりと今年も実がなるのか心配です。剪定が終われば春の訪れとともに、いよいよ農作業も本格化します。今年も凍霜害や台風などの被害もなく、農作物が順調に生育し、笑顔で収穫できることを願ってやみません。

(一)



ご
つ
つ
あ
ん
で
す

信州の農畜産物



JA全農長野は、長野県の農畜産物を通して御嶽海関を応援しています。



光と風と水のハーモニー
JA全農長野



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>



グリーンレーダー3月号 (毎月発行) 2023年2月20日発行 第526号
発行/JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人/高田武司 印刷/PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3